キャリア教育の視点を取り入れた高等学校公民科教育の探求
―多様な学びに支えられたキャリアデザイニング力の育成―

加藤　春彦（東京都立大森高等学校）

１．研究の目的

（１）主題設定の理由

高校生の卒業後の進路は、中学・高等学校進学時に比べると格段にその選択肢が広がる。高校生は多様な選択肢の中から自分の適性や興味を深く考慮して、社会における自己の生き方の選択が迫られる。それは、他の選択をしないという決断をすることでもある。果たして、今の高校生は本当に自分の適性や興味を理解した上で、進路選択が出来ているのであろうか。進学率上昇に伴うモラトリアム傾向の生徒が増え、目的意識が希薄なまま進学を考えている生徒もいるのではないだろうか。

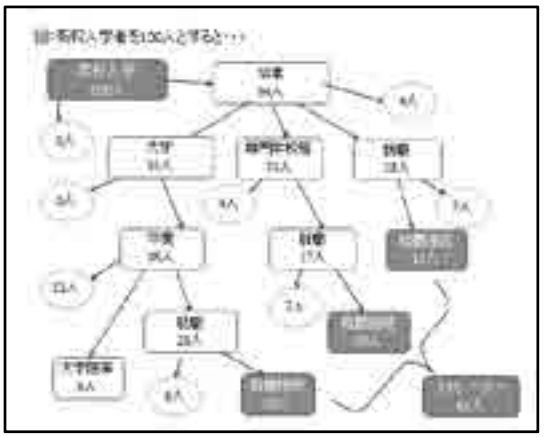

図1「高校入学者を100人とすると…」（児美川2012）

また、高校生がこれから出て行こうとしている社会は、急激な技術の進歩や雇用に関する考え方の変化が著しい。新規学卒者の就職は困難な状況である一方で、就職3年以内の離職率の高さが問題となっており、学校から社会・職業への移行をめぐる問題は、重要な教育課題である。誰もが学校卒業時だけでなく、一生涯にわたって自らのキャリア選択や形成を続けることが必要なのである。児美川（2012）は、現在の高校入学者の総数を「100人の村」の住民に例えた時、住民たちのその後のキャリアがどうなっているかを文部科学省と厚生労働省の統計に基づいて推計している（図1）。生徒はこうした社会認識や職業世界の理解を基に自らのキャリアを常にデザインしていくことが必要なのではないだろうか。

しかしながら、キャリア教育の現状として、「総合的な学習の時間」を中心とした実践が多く、キャリア教育が日常化されていないという課題がある。青木（2010）は、「教科・科目こそ教育課程の中心であり、学びの中心である。キャリア教育は全教育活動で推進することであり、その最大の課題は、教科指導にキャリア教育の視点を持たせることである」と述べ、キャリア教育の視点を取り入れた教科指導の必要性を呼びかけている。

そこで、本研究では、筆者の専門教科である公民科においてキャリア教育の視点を取り入れた授業実践を行い、生徒一人ひとりのキャリアデザイニング力を深めたいと考えた。自らのキャリアを考えていく上で、現代社会について理解し、それに基づいて自らの生き方や社会の在り方について考察することが欠かせない。したがって、公民科教育は、高等学校のキャリア教育において、重要な役割を担っていると言えるのではないだろうか。

（2）本研究における検討課題

上述したキャリアデザイニング力とは、「自らの人生を永遠にデザインし続ける力」のことである。「キャリアデザイン」ではなく「キャリアデザイニング」としたのは、生き方や働き方を一度デザインしたら終わりではなく、人生の中で何度も点検し、必要に応じてデザインしなおし、またそこから前に進んでいくという現在進行形というスタンスが求められる時代であると考えたからである。このキャリアデザイニング力を深めていくためには、「自分を知る」「他者を知る」「社会を知る」（以下、「キャリアデザイニング 3 要素」）が必要だと考えられる。公民科教育にキャリア教育の視点を取り入れるにあたり、「キャリアデザイニング 3 要素」を意識した授業モデルを構築し実践することで、キャリア教育の充実を図るとともに、現代社会を主体的に考察し、公民としての資質を養うという公民科の目標に近づくこともできるのではないかと考えた。

（3）目的

本研究の目的は、公民科教育において「キャリアデザイニング 3 要素」を取り入れた授業実践を行うことによって、生徒のキャリアデザイニング力が深まるということを、実践を通して明らかにし、公民科教育にキャリア教育の視点を取り入れることの有効性を明らかにすることである。

2．研究の方法および経過

（1）公民科キャリア教育モデルの構築と検証授業による吟味・提案

本研究は、高等学校公民科（政治・経済）の授業実践を中心に分析と考察を行う。対象は、筆者が担当している連携協力校第 3 学年理系クラス 70 名の生徒である。

研究方法の第一として、「キャリアデザイン 3 要素」を取り入れた授業を行うために構築した「公民科キャリア教育モデル」をもとに授業実践を試みた。テーマは「雇用と労働問題から自己の生き方を考える」である。生徒の検証授業前後の「自己理解シート」の記述及び毎時の「ふり返りシート」の記述を分析し、その意識の変容を捉えようと試みた。

第二は、「21 歳の補習授業～大人になった君たちへ」という提案型授業実践である。

図 2　公民科キャリア教育モデル

公民科教育やキャリア教育の先行研究を検討すると、公民科とキャリア教育を連携した先行実践が少ないことがわかる(1)。そこで、山根（2009）らが実践した教科とキャリア教育の連携に関する先行実践をもとに「公民科キャリア教育モデル」を単元に取り入れるにための授業設計に必要な要素を 3 つにまとめた（図 2）。この「公民科キャリア教育モデル」を取り入れた授業を単元全体で実践することで、キャリアデザイニング力も深まるのではないかと考えた。

(1) 日本公民教育学会『公民教育研究』等を参照。

（2）公民科キャリア教育の授業構想

（ⅰ）キャリア教材の選定（「社会を知る」「自分を知る」）

学習内容と社会生活との繋がりに触れた教材（以下、「キャリア教材」という）を用いることにより、生徒は授業の学びと社会生活との繋がりを意識するのではないかと考えた。学習内容がどのような日常生活の場面で活かされているのか、どのような職業のどのような場面で活かされているのかという視点を教材研究に取り入れて、授業で生徒に示すことにより、生徒が現代社会について理解すると同時に、自己と社会との関連性を深く理解することができるのではないかと思う。そこで、学習指導要領の公民科の目標を踏まえ、キャリア教材を開発する視点を 3 つに整理し、その教材例を作成した（表 1）。

表 1 キャリア教材開発視点と教材例

視点	教材例
①自らの労働や社会生活との繋がり	会社設立シミュレーション ブラック企業、非正規雇用
②社会の有為な形成者としての役割の繋がり	模擬選挙、模擬裁判
③人間の尊重との繋がり	クローン人間、出生前診断

（ⅱ）多様なアクティブラーニングの導入（「自分を知る」「他者を知る」）

我々は、他者との繋がりから様々な違いを感じ取ると同時に、自己が見えてくる。そして、社会で生きていくためには、他者を理解するとともに、円滑なコミュニケーションを心がける必要がある。そこで本研究では、キャリア教材に適した「多様なアクティブラーニング」を取り入れた。溝上（2013）は「教科とキャリア教育を架橋するのがアクティブラーニングである」とその重要性を述べている。また、アクティブラーニングを実践することで、キャリア教育の中の目指す「基礎的・汎用的能力」の向上にも繋がると考えた。

（ⅲ）自己省察機会の設定（「自分を知る」）

下村（2010）は、「高校生にとって必要な自己理解とは、将来を展望する。自信をつける。得意なことを見つける」と述べ、主体的なキャリア選択の力の第一歩は肯定的自己理解としている。しかしながら、高校生は授業を通して、何を考え、どのようなことが身に付いたのか、また、身に付いたことが将来どのように活きるのかを考える機会が少ない。そこで毎時の「ふり返りシート」と単元のまとめとして「自己理解シート」を行うことで、授業の中で考えたことや身についた力を認識し、社会生活でどのように活きるかを考えることができるのではないだろうか。

表 2　自己理解シート公民科版（筆者が再構成）

3．研究の成果

（1）授業実践Ⅰ「雇用と労働問題から自己の生き方を考える」

2013 年 11 月 6～27 日に連携協力校において全 8 時間の検証授業を行った。単元は「雇用と労働問題」を扱い、公民科キャリア教育モデルに基づいたに単元指導計画を作成した（表 3）。単元の選定については、年間指導計画及び対象学年が 3 年生とい

う社会そのものが迫っているという発達段階から、本研究のテーマに照らし合わせると「雇用と労働問題」が適切であると判断した。全８時間を３段階に分け、キャリア教材作成の視点をまとめた。

段階	キャリア教材作成の視点
①働くルールを知る	身近な労働問題として求人広告や実際に高校生が体験した労働問題を扱い、労働法の必要性に気づくとともに、労働を身近なものであると感じる。
②社会構造を理解する	ブラック企業や非正規雇用問題など現代の雇用・労働問題の中心課題を扱うと同時に、会社調べ学習を通して職業世界についての認識を深める。
③将来をデザインする	「雇用と労働問題」に関する学習内容を踏まえ、自らのキャリア（将来）を一度デザインし、今の自分に立ち返ってキャリアについて考える。

多様なアクティブ―ラニングでは、ジグソー法を用いた協調学習の実践を含め、他者との繋がりを意識した学習形態を多く取り入れた。ジグソー法を用いた協調学習（表３参照）では、エキスパート活動とジグソー活動の２つのグループ学習を行わせることで、他者とコミュニケーションを図りながら協力して考えをまとめていく力等が育成され、「基礎的・汎用的能力」の人間関係形成力の向上にも繋がる手立てになるのではないかと考えた。

表３「公民科キャリア教育モデル」に基づいた「雇用と労働問題」単元指導計画

段階	時	主な学習活動　　内は意図的に取入れたキャリア教材	多様なアクティブラーニング
働くルールを知る	１・２	**①身近な労働問題から労働法へ** ○本単元の学習内容・学習活動を知る。 ○クイズ形式で身近な労働問題について関心を高める。 **≪キャリア教材①≫** これから学ぶ労働法が実社会に出ていくために必要であることに気付くために、求人広告や実際に高校生が体験した内容を踏まえた問題のワークシートを作成 ○労働に関わる法律について、労働基準法・男女雇用機会均等法・最低賃金法等を通して、その意義を考える。	**○バズセッション＆発表学習** 自由に話し合わせる雰囲気を作る。どんな意見でも出し合える雰囲気で、人間関係形成力を高める。
社会構造を理解する	３～７	**②現代の労働問題―ブラック企業を例に-** ○ブラック企業の実態を理解し、労働基本権や労働三法の内容を踏まえ、就職した後に自分の職場がどんな環境なのかを客観的に認識できるような知識と思考力を習得する。 **≪キャリア教材②≫** ①賃金と勤務時間の問題（過労死を例に）、②パワハラの問題（職場環境能崩壊について）、③仕事のやりがいの3観点からブラック企業の実態を理解する資料を提示。 **③ブラック企業に就職したら、どうする？** ○具体的な労働問題のケースを用いて、労働基準法　などの法律に違反している点はないか、違反している場合、どのような解決方法があるかを考える。 **≪キャリア教材③≫** 実際に起きた労働相談のケースを取り上げ、アルバイトの事例と正社員の事例を活用。 **④会社調べシミュレーション** ○前時までに学んだ労働法を踏まえた上で、求人情報や就職支援サイトを活用して、自分の希望の会社を選ぶ。（業務内容・労働条件等） **≪キャリア教材④≫** 求人情報や就職支援サイトを活用することで、働くことに関して自己理解を深め、将来設計を考える。 **⑤現代の雇用問題-非正規雇用をめぐる様々な課題-** ○今日の流動化する雇用形態における問題点について3つの観点から学習し、個人の生き方の問題であると同時に国家・社会的問題であることに気づく。 **≪キャリア教材⑤≫** ①フリーターの落とし穴（生涯年収の格差、健康保険未加入など）、②派遣労働者の生活と派遣切りの実態、③正規雇用者の推移と非正規雇用者の推移社会保障の危機の3観点から非正規雇用をめぐる様々な課題を理解する資料を提示する。	**○ジグソー法を用いた協調学習** 自分が学んだ内容をどのようにすれば相手に分かりやすく伝わるかを考えると同時に、他者の考えを聞きとる。 **○ケーススタディ** グループで話し合い、協力して解決方法を検討する。実際に活用できるものとして労働法を理解する。 **○ICT活用学習** インターネットから必要な情報を収集してまとめるとともに、資料の比較・分析をし判断する。 **○ジグソー法を用いた協調学習** 自分が学んだ内容をどのようにすれば相手に分かりやすく伝わるかを考えると同時に、他者の考えを聞きとる。
将来をデザインする	８	**⑥キャリアデザイニングレポート-雇用と労働問題を踏まえて-** ○「理想の仕事と働き方とは何か。また、その実現に向けて『今』の自分がどのようなことを意識して、卒業後の進路で過ごしていきたいか。近い将来みんなが直面する労働問題（ブラック企業・多様な雇用形態）を踏まえて、考えてみよう」というテーマでレポートを書き、自らのキャリアをデザインする。	**○レポート学習** 自らの人生を永遠にデザインし続けるために、今回学んだことを踏まえた上で一度デザインをする。キャリアデザイニングの重要性に気づく。
毎時のふり返りシートの実践（全7時間）＆自己理解シートの実践（単元修了後）			

（3）授業実践Ⅰ「雇用・労働問題から自己の生き方を考える」の分析と考察

結果の分析に用いた資料は、授業中に記入したワークシートと毎時のふり返りシート、単元前後に行った自己理解シートである。分析は、生徒が学びと日常生活や将来との繋がりを意識できたか、他者理解を通した自己理解が深まったか、の2つの観点から行った。

（ｉ）ふり返りシートから見た学びと社会との繋がりに対する生徒の意識

毎時のふり返りシートから生徒の意識の変容を分析する。検証授業前の生徒の記述では「楽しかった」「勉強になった」「つまらない」など抽象的な記述が多かったものの、検証授業後は約9割の生徒が学習内容と社会生活との繋がりを意識した記述をしており、自らの立場（日常生活や将来）に置き換えて考えるようになったことが読み取れる。

表4　毎時のふり返りシートより抜粋（下線は筆者による）

生徒	第1時	第3時	第5時	第7時
32TMB	労働基準法にも色々な種類があって、適用される場合を考えていきたい。また、働く上で知識はたくさんあったほうが良い。	ブラック企業について初めて真剣に考えたけど、想像以上に難しかった。今のうちに勉強して、働くときに不利にならないようにしたいと思った。	職業について調べるのは予想以上に大変だった。様々な職業の労働条件・給料などを知ることができた。これからもしっかり調べたい。	正社員になると良いけど、非正規社員になると大変だと思った。正規と非正規社員の生涯年収や保険などの違いをしっかりと理解できた。

表4はある男子生徒の毎時のふり返りシートを抜粋したものである。32TMBは全てのふり返りシートの記述において、学習内容と社会の繋がりを意識した上で、自分の立場（日常生活や将来）に置き換えて記述する（下線）傾向が見られた。これはキャリア教材が社会生活に即したものであることから、自らの労働や日常生活を具体的にイメージしながら学習でき、学習内容の学ぶ意義を感じながら授業を受けていたと考えられる。

また、第8時に実施した「キャリアデザイニングレポート」では、柔道整復師という夢を描きながらも、授業で学んだ職場環境の話にも触れていた。協調学習や発表学習を通して身に付けたコミュニケーション能力を活かして、より良い職場環境にしていきたいというものが読み取れた。学習内容と授業で身に付けた力が結びつき、自らのキャリアを考えていく上で一つのポイントとなったと考えられる。キャリア教材に適した多様なアクティブラーニングの実践に有効性があったと考えられる。この点は、次項でも確認できる。

表5　キャリアデザイニングレポート抜粋

私は接骨院の先生になるために大事にしたいことはコミュニケーション能力である。選手や患者の症状を聞いたり・・・（中略）コミュニケーションは患者とだけではなく、同じ職場の人とも大事にしていきたい。職場でコミュニケーションとよく取ることで、全員が働きやすい環境をつくることができ、職場での問題が起こりにくくなるだろう。

（ⅱ）自己理解シートから見た学びと社会との繋がりに対する生徒の意識

10 月（検証授業前）と 12 月（検証授業後）に実施した自己理解シートの記述から、生徒が学びと社会や自分の将来との繋がりを感じているかを検証した。

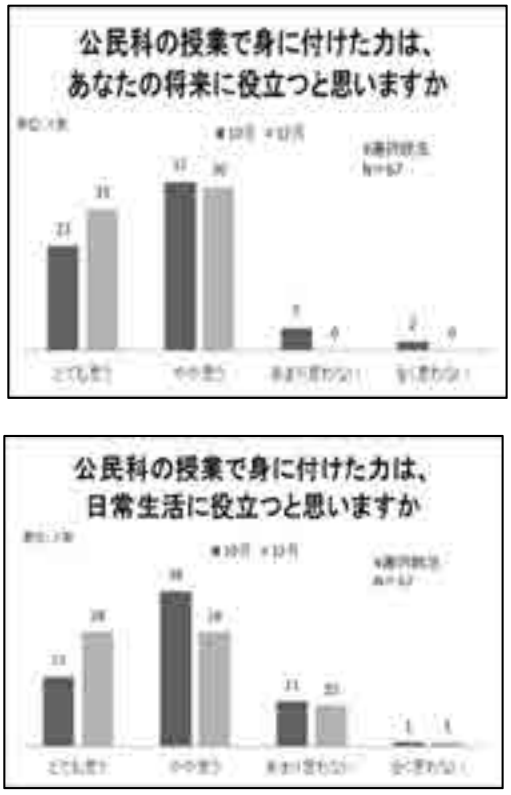

図 3　自己理解シートから

図 3 から、生徒の意識は肯定的に変わったことがわかる。「自分の将来に役立つか」に対しては全員が肯定的な回答をしている。その理由として、「社会に出て役立つ知識が身に付けられたから」という学習内容と社会を結びつけて考えている記述が多かった。提示する教材を実際の社会問題に即して、授業で学んだ労働法の知識などを踏まえて考えさせたこと、会社選びシミュレーションを通して、実際の就職活動をイメージさせながら、働くことについて考えさせたことに効果があったと考えられる。また、「社会に出たら自分の意見や考えを相手に伝える、相手の意見を正確に理解する必要や機会が多くあると思う」といったような記述もあり、授業で身に付いた力が、今後の職業生活において必要な力であることを理解している生徒の様子が表れている。これらはジグソー法を用いた協調学習など多様なアクティブラーニングを導入し、学習方法で身に付けた力がどのように社会生活や職業生活で必要なのかということを教師が課題を提起することの重要性を示唆するものと言えないだろうか。また、「日常生活に役立つか」に対しては肯定的意見が多少増えているものの、否定的意見もあった。「日常生活で使う場面があまりないと感じるから」という意見が見られた。しかしながら、肯定的意見の中には「これからアルバイトをするときに、授業で学んだ労働法がしっかり守られているのか確かめたい」といった具体的な生活場面において、授業で身に付けた力を結びつけており、その意見を相対化していると言えよう。

以上のことから、授業を通して多くの生徒は授業での学びと社会や自分の将来との繋がりを感じ取ることができ、自己と社会との関連性を深く理解できたと考えられる。

（ⅲ）自己理解と他者理解の往還による拡張・深化

12 月に実施した自己理解シートの記述から生徒の自己理解の深まりを分析・考察した。「これまでの公民科の授業を通して、どのような力が身についたと思うか」という質問に対して、生徒全員が記述しており、授業によって身についた力を意識することができた。キャリア教材から学んだ学習内容やアクティブラーニングを通して身に付けた力を理解している様子が見られた。表 6 はその記述例である。特に「他者と

コミュニケーションをとる力」がついたという記述が多く、基礎的・汎用的能力の要素である「人間関係形成力」の向上が見られた。授業実践Ⅰを通して、多くの生徒が肯定的に自己理解できたと言える。

表 6「授業を通して身に付けた力」記述例

- 自分の意見を言う力
- 将来就く職業や企業を見極める力
- グループワークを通して、物事をまとめる力、発言力が身についた
- 人とコミュニケーションをとる力（面接や会社に就職したときに他の社員とコミュニケーションをとること）
- 資料を読み、そこから内容を読み取ってまとめる能力
- 社会を客観的に見る力
- 社会を色々な視点から考える力

「自分自身について新しく気づいたことや改めて感じたこと」については、対象 67 名中 25 名が肯定的な記述をしている（図 5）。表 7 はその記述例である。改めて自分自身をふり返って記述することにより、他者と自己を比較し、具体的な場面での自分の姿をふり返り、前向きに考えられている様子が見られた。

一方で、15 名の生徒が否定的な記述をしている。なぜ、20%もの生徒が否定的な記述をしているのか。この生徒たちも「授業で身に付けた力」は記述できていたので、2 つの質問に関する記述の関係性を探ってみた。表 8 はその記述例である。

図 5　「自分自身の新たな気づき」に対する生徒の記述の質的分類

表 7「自分自身の新たな気づき」記述例

- 人の意見をまとめることができる
- 自分の意見を持つことは大切
- 他人の考え方も大事
- 意外と自分の意見を説明できる
- 様々な仕事があることがわかり、自分のやらなければいけないことがわかった。

表 8 から、否定的な記述をしている生徒は、自分の課題を記述していることが分かる。32SHG は、「自分で考えたことを相手に伝える力」はついたと思っているが、「自分自身への新たな気づき」では、「意見は言えたけど、まとめるのが下手だったと思う」という自己の課題を言及しており、自己理解がより深まっていると考えられる。対象生徒が 3 年生ということから、授業を通して他者の将来に対する考え方やグループワークの取り組みを見ていたので、他者理解を通して自己を見つめ直すきっかけになっていたのではないかと考えられる。

表 8　記述の比較例

生徒	授業で身についた力	自分自身についての新たな気づき
32SHG	自分で考えたことを相手に伝える力	意見は言えたけど、まとめるのが下手だったと思う。
32HMG	話し合いをまとめて、他の人に伝える力。自分の考えを述べ、そして他の人の意見を聞いた上で自分の考えをまとめる力。	話がうまくまとめられず、長々しく話してしまうことが多くあった。
32YSB	将来働く時または仕事に就く時に何を基準に選ぶか会社の探し方が身についた。	要約が苦手で、他の意見との妥協点が上手く見つけられなかった。

（ⅳ）授業実践Ⅰを通して

この実践を通して、生徒が学習内容と社会との繋がりを意識し、社会と自己の関連

性を深めると同時に、アクティブラーニングによって他者との繋がりを意識しながら自己が見え、キャリアデザイニング力が深まったのではないかと感じた。毎時のふり返りシートや自己理解シートを実践することで、自分自身の変容に気づく生徒もいた。第8時に実施したキャリアデザイニングレポートでは、授業で学んだ知識や身に付けた力を大学生活や就職活動、実際に職場で働いたときに活かしたいという具体的な場面を想定して自らのキャリアを考えている生徒が多くいた。公民科における多様な学びが実社会に結びつき、自らのキャリアをデザインしていく上での一助になったと考える。

（4）授業実践Ⅱ（提案型授業）「21歳の補習授業～大人になった君たちへ～」

2014年1月17日の最終授業において「21歳の補習授業～大人になった君たちへ～」という取り組みを行った。テーマは「3 年後の自分に手紙を書こう！」とした。なぜ「3年後」か。それは、3年後とは、大学進学する生徒であれば3年生で就職活動が迫っている、短大・専門学校に進学する生徒は社会人1年目、卒業後すぐ就職する生徒は社会人3年目という様々な形で社会と関わりを持つ時期だからである。未来の自分を想像し、どのような生活をしているのか、今はこんな気持ちで毎日を過ごしているが、未来の自分はどうか等を考えることで、自らのキャリアを卒業した後も意識できるのではないだろうか。

【テーマ】	「3年後の自分へ」
【実施方法】	封筒と便箋を配布し、3年後の自分に手紙を書く。3年後はどのような形で社会と関わっているかを想像しながら、自分への応援メッセージや高校で今まで学んだことがどう活きているかを書く。 3年後、私のコメントをつけてポストに投函するシステムである。

4．まとめと課題（総合考察）

（1）公民科教育に多様なキャリア教育の視点を入れることの有効性について

公民科教育にキャリアデザイニング 3 要素の視点を踏まえた公民科キャリア教育モデルを取り込むことで、生徒の思考に広がりや深まりを見せるようになった。そこから生徒は、自分自身を客観的に見られるようになり、授業で身に付けた力に気づき、そして社会や他者との関係の中から自己理解を深めていった。社会そのものが身近に迫っている高校生だからこそ、自己を客観的に見られると同時に、社会とどのように関わっていくかを考えようとしていたと思われる。

生徒が自らのキャリアをデザインしていくために、我々高等学校の教師がするべきことは、「将来、どういう職業や学校に進むか」を迫るだけではなく、自分に向き合うために必要な社会との繋がりという媒介を通して、自分にはどんな力があり、さらにどんな力をつけたら今より成長し、社会に貢献できるのかを考えさせる機会を設けることではないだろうか。そのことが、将来を見通した上で主体的なキャリア選択の力へとつながると考えられる。さらに、教師が示した学びと社会との繋がりを多くの生徒が前向きにとらえて、自分なりに真剣に学びの意味づけをするようになっていった。キャリア教育の視点を公民科授業に取り入れることによって、生徒の意識が変化したと言える。

キャリアデザイニング 3 要素を意識した「公民科キャリア教育モデル」を取り入れることの有効性を生徒と教師のそれぞれの視点からまとめると次のようになる。

生徒	①他者理解に基づいた自分自身の変容や成長に気づくことができる。
	②学習内容と社会との繋がりを意識することで、学ぶことの意義が明確になる。
	③授業で身に付けた学習内容や力が日常生活や将来に活かせるかを考えることで、自らのキャリアをデザインしていくことができる。
教師	①授業の構築にあたり、「指導すべき内容」と「身に付けさせたい力」の 2 つの軸を持つことで、目標と手立てが明確になる。
	②取組を継続することで、生徒の変容や取組に対する意欲や関心の把握が出来る。
	③教師自身の教材選定の視点が明確になり、構造的な授業を構築できる。

（2）提案

（ⅰ）キャリア教育の視点を取り入れた公民科教育の授業モデル

以上のことから、授業実践Ⅰ・Ⅱを通して公民科キャリア教育モデルの有効性が示唆されるので、他の単元等に活用し、「公民科キャリア教育モデル 3 要素」の留意し、実践研究有効性をさらに検証していきたい。

キャリア教材の選定	学習内容と社会生活との繋がりに触れた教材であることに加え、オーセンティック（真正性）な教材を選択することが重要である。単元の学習内容の中で“今”を一番表している本質をつかめる教材を扱い作成する。
多様な アクティブラーニング	画一化したアクティブラーニングだけではなく、学習内容に即した多様なアクティブラーニングを単元全体で実践する。特にジグソー法を用いた協調学習は人間関係形成能力や課題対応能力の育成に有効である。
自己省察機会の設定	単元初めと終わりに自己理解シートを通して行うことで、単元全体でどのようなことを学び、学んだことが社会にどのように活かせるかを考える重要な機会となる。また、毎時のふり返りシートを実践することで、授業において意識することが明確になる。

（ⅱ）キャリア教育の視点を取り入れた学習年間指導プラン

生徒が公民科の学びを通して自らのキャリアについて考えるためには、年間を通した実践が必要なのではないかと考えた。そこで、キャリア教育の視点を取り入れた授業開発をしていくに当たって、学習内容を生徒がライフステージに沿った形で取り上げるよう授業計画を再構築した。法律や経済がライフステージの節目に必ず関係することに気付くことで、知識や技能を習得することが「実社会に役立ちそうだ」と感じさせることができ、社会事象と自己の関係をより理解しやすくさせるのではないだろうか。そのため、表 9

表 9 キャリア教育の視点を取り入れた年間指導プラン

月	学 習 指 導 内 容	キャリア教材	ライフステージの段階
4	1. 現代に生きる私たちの課題 科学技術の発達と一人一人の生命 学ぶということ	クローン人間・ 出生前診断	誕 生
	2. 現代に生きる青年 現代社会と青年の生き方	自らの高校生活	
5	働くこと、社会と関わること	働く人の新聞記事	青年期
	3. 現代の経済社会と私たちの生活(1) 経済社会と経済体制		
	現代企業と中小企業	株式会社を作ろう	就 職
	雇用と労働問題	ブラック企業・ 非正規雇用	
6	4. 現代の民主政治と私たちの生活(1) 民主政治における個人と国家		
	基本的人権と法の支配		
	基本的人権の保障と新しい人権		政治参加(1)
7	5. 現代の民主政治と私たちの生活(2) 国民主権と議会制民主主義	模擬選挙	結 婚
	政党政治と選挙		
9	6. 現代の経済社会と私たちの生活(2) 市場経済のしくみ	株式学習ゲーム	
	経済成長と景気変動		
10	政府の経済的役割と租税の意義	消費税増税 金利・カード	住宅ローン
	金融機関の働きと消費者問題		
11	7. 現代の民主政治と私たちの生活(3) 内閣と行政の民主化		政治参加(2)
	裁判所と人権保障	模擬裁判	
12	8. 現代社会の特質と社会生活の変化 豊かな生活と社会福祉	年金制度	
	社会保障	社会保障制度	老後の生活
1	国際社会と日本の役割		

にあるように経済分野・政治分野ともライフステージに合わせた内容にするため分割した計画になっている。公民科「政治・経済」の授業においても、「現代社会」的要素を取り入れることによって、自らのキャリアを意識した授業になるのではないだろうか。

（3）課題 - 公民科教師の専門性と力量形成 -

本研究における一番の課題は、教材研究力である。キャリア教材を選定・開発していくにあたり、通常の教材研究以上に膨大な時間がかかった。さらに、今回は大学院の指導教員や同期の院生・連携協力校の指導教員からの様々なアドバイスを活かして教材開発を行うことができ、決して一人だけではこの研究は成し得なかったと思う。本研究を学校現場で活用していくためには、自らの専門性を高めるとともに、「教員の同僚性」を高めることが大切なのではないか。同僚の教員や研修会等で知り合った教員同士で教材開発を行うことや共同研究を行うことで、より優れたキャリア教材が開発できると考える。

５．主要参考文献

・青木猛正「キャリア教育推進の視点 - 埼玉県の事例から - 」『高校教育』，2010 年 11 月号、学事出版，p.38
・川崎市総合教育センター「自己理解を深めるためのキャリア教育の研究 - 教科における学びと社会のつながりを取り入れた授業を通して - 」研究紀要，2010 年 pp.105～124
・児美川孝一郎『キャリア教育のウソ』筑摩書房，2012 年.
・児美川孝一郎『権利としてのキャリア教育』明石書店，2007 年.
・国立教育政策研究所「キャリア発達にかかわる諸能力の育成に関する調査研究報告書」，2011 年.
・中央教育審議会「今後の学校教育におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」，2010 年.
・東京学芸大学社会科教育学研究室編『中高社会科へのアプローチ - 社会科教師の専門性育成』東京学芸大学出版，2010 年.
・日本公民教育学会編『中学校・高等学校公民教育』第一学習社，2004 年.
・本田由紀『教育の職業的意義 - 若者、学校、社会をつなぐ』ちくま新書，2009 年.
・山根あさか「高校生物におけるキャリア教育の実践 - 自己理解を深める授業モデルの研究 - 」神奈川県立総合教育センター長期研究員研究報告書，2009 年.